

From the AskAboutHPV.org website

### Q1: HPV って、なに？

HPV とは“ヒトパピローマウイルス（ヒト乳頭種ウイルス）”のことです。あまり聞き慣れないウイルスかもしれませんが、とても大きなグループを構成していて、200 種類以上の HPV が知られています。その内一部のものが、性的接触によって伝染し、口腔・咽頭・外陰部・性器などに感染します。とてもありふれたウイルスで、男性・女性関係なく 10 人に 8 人は一生のうち、どこかの時点で HPV に感染しています。HPV に感染しても多くの場合が無害ですが、一部、尖形コンジローマや“がん”の原因になることがあります。男性も女性も HPV による“がん”になりますが、男性において近年増加が顕著です。このような HPV 感染によって生じる“がん”は子宮頸がんをはじめ、陰茎がん・肛門がん・膣がん・外陰がん・口腔がん・咽頭がんなどがあります。

### Q2: HPV にどうやって感染するの？

“がん”の原因となるような HPV は、多くの場合、性的な接触によって感染します。他の人から感染するのに加えて、口腔・咽頭から外陰部へなど、自分の体の中でも感染が広がることがあります。

### Q3: HPV に感染するのをどうやったら防げますか？

HPV はあまりにもありふれたウイルスですので、完全に感染するのを防ぐことは現実的にできません。性的経験のある人たちの約 8 割がどこかの時点で尖形コンジローマや“がん”の原因になる HPV に感染すると考えられています。それでも、HPV に感染するリスクを下げるいくつかの方法があります。

1) 最も確実に効果的な方法は、適切なタイミングでワクチンを接種することです。ぜひ、定期予防接種の対象者であれば HPV ワクチンを接種するようにしましょう。また、それ以上の年齢の方でも、かかりつけ医と相談の上、接種を検討してもいいかもしれません。

HPV ワクチンは子宮頸がんや HPV 関連がんになる確率を 90%減少させます。（日本では二価・四価ワクチンが定期予防接種の対象で九価ワクチンは昨年承認された段階です）

2) 性的な接触を持つ場合、できる限りコンドームを使用しましょう。コンドームを使用することは、HPV に感染する確率を下げることはできますが、完全に防ぐことはできません。HPV は皮膚と皮膚の接触によって伝染しますが、コンドームは体の一部分しか覆っていないからです。性的接触の最初から最後まで 100%コンドームを使用することで、70%の感染予防効果があると考えられています。

3) 自分自身とパートナー、共に性的なパートナーの数が少ないほど、HPV に感染する確率が少なくなると言えます。HPV の感染は数ヶ月から数年以上持続することもあることを忘れないでください。

### Q4: HPV 感染による“がん”にならないようにするには、どうしたらいいですか？

1) まず、Q3 にある HPV 感染リスクを下げる方法をとってください。

2) 子宮頸がん検診を受けてください。HPV は時間をかけて感染した細胞を変化させ“がん”へと進行します。初期の変化を“前がん病変”と言います。子宮頸がん検診はこの前がん病変を見つけるための検査で、がんになる前である前がん病変の状態で見つけ・治療することによって、がんになるリスクを下げるのを目的としています。子宮頸がん検診はワクチンを接種した・していないに関わらず、子宮頸がんになるリスク下げる重要な検査で

す。日本では 20 歳以上の女性に対して 2 年に 1 回の子宮頸がん検診を推奨しています。補助等もありますので地方自治体・医療機関に相談してください。

3) 定期的な子宮頸がん検診は子宮頸がんのリスクを下げるのに有効な方法ですが、その他の HPV 関連がんに関する有効な検査方法はありません。しかし、陰茎がん・肛門がん・膣がん・外陰がん・咽頭がんを疑うような症状がある場合（出血や痛み、新しい出来物や変化など）や、HPV 感染が心配であるならば医療機関に相談してください。歯科・口腔検診や肛門検診を提供している医療機関もあります。

4) 禁煙しましょう。喫煙は HPV が持続感染するのを助けます。HPV の持続感染は HPV 関連がんの発症につながります。もし今喫煙者でないのであれば始めてはいけません。

#### Q5: HPV をパートナーに移さないようにするには？

HPV 感染は、あまりにも一般的で症状がないことが多く感染を自覚していないことが普通です。そのために、伝染を完全に防ぐことは非常に困難です。しかし、そのリスクを下げるためにできることがいくつかあります。Q3 と Q4 にあることは自分の HPV 感染や HPV 関連がんになるリスクを下げると同時にパートナーの HPV 感染リスクを下げることに有効です。

#### Q6: HPV テスト (DNA テスト) はどのように受けられますか。

HPV テストが子宮頸がん検診プログラムに組み込まれている国もあります。日本では、市区町村などで行われる子宮頸がん検診に HPV 検査は現在導入されておりません。一部地域で子宮頸がん細胞診と HPV 検査の併用検診が実施されていますが、有用性を検証している状況です。その他の部位の HPV 関連がんに対して HPV テストは現在用いられていません。

#### Q7: HPV 感染症は治りますか？

多くの場合、治療をしなくても、体の持つ免疫システムによって HPV 感染症は勝手に治ります。時々、免疫システムがうまく働かないことがあり、感染が持続し、がんへと進行していくことがあります。HPV 感染症に対する有効な治療法はなく、ワクチンによって HPV 感染を防ぐこと・子宮頸がん検診によって前がん病変を見つけることが、子宮頸がんを減らすのに有効です。

#### Q8: HPV に感染したら“がん”になってしまうの？

感染した人の内、一部の人が“がん”になります。HPV に感染したことがそのまま“がん”になることを意味しませんし、多くの HPV 感染は問題を起こしません。しかし、HPV 感染による“がん”は重要な健康上の問題です。ワクチンを接種することによって HPV 関連がんの多くは防ぐことができます。定期予防接種の対象者であれば、HPV ワクチンを是非接種しましょう。また、それ以上の年齢の方でも、かかりつけ医と相談の上、利益があると考えられれば接種を検討してもいいかもしれません。

ワクチンは初めての性的接触の前に接種するのが一番効果があります。加えて、ワクチンを受けていても受けていなくても子宮頸がん検診は子宮頸がんを防ぐために定期的に受けるようにしましょう。HPV 関連がんに関して心配なことがある人は Q4 を参考にしてください。

もし、HIV や臓器移植など免疫が抑制状態にある場合、HPV 感染症に対して特別に注意する必要があります。ワクチンを接種し定期的に子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。HPV ワクチンは HIV に感染している人に対しても安全で有効です。

子宮頸がん以外の HPV 関連がんに対する検診は存在しません。ですから、陰茎がん・肛門がん・膣がん・外陰がん・咽頭がんを疑うような症状がある場合（出血や痛み、新しい出来物や変化など）や、HPV 感染が心配であるならば医療機関に相談することが大切です。歯科・口腔検診や肛門検診を提供している医療機関もあります。

#### Q9: HPV ワクチンを受けています。子宮頸がん検診を受ける必要がありますか？

定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。HPV ワクチンは子宮頸がんや HPV 関連がんになる確率を 90% 減少させます（日本では二価・四価ワクチンが定期予防接種の対象で九価ワクチンは昨年承認された段階です）。しかし、現在の HPV ワクチンはワクチン接種前の感染には効果がありません。加えて、ワクチンが防ぐことができない稀な種類の HPV に感染してがんを発症することもあるからです。

#### Q10: イボは HPV 感染によって起こる？

その通りです。HPV の感染は手・足・外陰部・性器・肛門の“イボ”の原因となることがあります。手や足にイボを生じる HPV と外陰部・性器にイボを生じる HPV では種類が違います。外陰部・性器にイボ（尖圭コンジローマ）を生じる HPV は、通常性的な接触によって伝染し、握手やハグなどでは移りません。外陰部・性器にイボを生じる種類の HPV は子宮頸がんや HPV 関連がんを起こす種類の HPV と違って、通常がんの原因となりません。

#### Q11: もしイボを持っている人と接触してしまったら、HPV が移ってしまいますか？

HPV によるイボの表面には大量の感染性 HPV が存在するため、例えば尖圭コンジローマを持っている人と性的接触をした場合、あなたも尖形コンジローマになる可能性が高くなります。4 価・9 価ワクチンは尖形コンジローマを起こす種類の HPV に対しても効果があります。医療機関相談してください。

#### Q12: もし尖形コンジローマを持っている人と接触してしまったら、HPV 関連がんになってしまいますか？

尖形コンジローマと HPV 関連がんは違う種類の HPV によって起こります。しかし、同時にがんの原因になるような HPV にも感染してしまった可能性があります。そのため、尖形コンジローマを起こす種類の HPV 感染が“がん”の原因になることは通常ないとは言え、全体としてリスクが高くなります。医療機関に相談の上、ワクチン・検診などについて相談してください。

#### Q13: 過去に尖形コンジローマかかったことがあります。今は治癒しています。現在は HPV に感染していないと考えてもいいのでしょうか？

現在活動性の HPV 感染（尖形コンジローマ）はなく、おそらくパートナーに移すことはないと考えられます。しかし、尖形コンジローマを起こす種類の HPV に感染したことがある

ということは、HPV 関連がんを起こす種類の HPV にも感染した可能性があることを示しています。医療機関に相談の上、ワクチン・検診などについて相談してください。

**Q14: 私は男性です。HPV について知る必要がありますか？**

もちろんです。男性であっても HPV に感染する・HPV 関連がんになるリスクがあります。尖圭コンジローマや肛門がん・陰茎がん・口腔がん・咽頭がんは男性に起こりうる HPV 関連の病気です。あなたが HPV に感染している場合、パートナーにうつしてしまう可能性があります。HPV ワクチンは男性においても、HPV 関連がんや尖圭コンジローマ（4 価・9 価 ワクチン）の原因となる種類の HPV への感染を予防できます。HPV 感染予防に重要なことは、初めての性的接触の前にワクチンを接種することです。

**Q15: 私は 26 歳以上です。HPV ワクチンを接種すべきでしょうか？**

26 歳以上であっても、ワクチンを接種する利益がある場合があります。個々の事情によって違うので医療機関に相談してください。

**Q16: 性的な接触を持ったことがありません。それでも、子宮頸がん検診を受けるべきでしょうか。**

もし、あなたがあらゆる種類の性的な接触を持ったことがないのであれば、性器や外陰部に HPV が感染している可能性は非常に低いと言えます。しかし、将来に備えて、HPV ワクチンを接種することや検診を受けることは意味があります。特に、ワクチンは初めての性的接触の前に接種することが一番効果的です。医療機関に相談してください。

**Q17: HPV DNA テストを受けて結果が陰性でした。HPV 関連がんになる可能性はないということでしょうか？**

HPV DNA テストの結果が陰性であることは、近い将来に HPV 関連がんになる可能性が低いことを意味します。しかし、定期的ながん検診を受けることは非常に重要です。医療機関に相談してください。

**Q18: コンドームの使用は HPV 感染を予防しますか？**

継続してコンドームを使用することは、HPV に感染する確率を下げることはできますが完全に防ぐことはできません。HPV は皮膚と皮膚の接触によって伝染しますが、コンドームは体の一部分しか覆っていないからです。性的接触の最初から最後まで 100%コンドームを使用することで、70%の感染予防効果があると考えられています。



### Q19 パートナーが HPV に感染していました。私も HPV に感染していますか？

必ずしもそうではありません。しかし、多くの場合、片方が HPV に感染していると数ヶ月のうちにパートナーに伝染します。HPV は見えない感染を起こし、大部分に症状がありません。あなた自身・あなたのパートナーが気づかずに HPV に感染しているかもしれません。HPV DNA 検査によって気づかなかった HPV 感染がわかることがあります。男性に対して HPV DNA 検査は通常行いませんが、男性も女性と同じように感染しています。

### Q20: 低容量ピルを使用しています。子宮頸がんのリスクは上がるのでしょうか？

確かに、HPV に感染している場合、長期間の低容量ピルの服用が子宮頸がん発症のリスクをわずかに上昇させるという報告があります。報告の多くは、古いタイプのピルに基づく研究によるもので、エストロゲン量の低い現在の低容量ピルにおいては、はっきりとは結論が出ていません（あったとしても非常に低い）。HPV に感染することが子宮頸がん発症の一番のリスクです。子宮頸がんにならないためには、1) まず HPV ワクチンを接種して HPV に感染しないこと、2) 定期的に子宮頸がん検診を受けることによって前がん病変で発見・治療することです。不安がある場合、まず医療機関に相談してください。勝手にピルの服用をやめるべきではありません。

*For Parents (please note these questions are in addition to generally relevant questions that can be found in the for Young People and for Adults section)*

### Q21: HPV ワクチンは安全でしょうか？

安全です。全ての承認された HPV ワクチンは独立して厳しく評価されています。全ての科学的なエビデンス・データは HPV ワクチンが非常に安全であることを示しています。世界保健機関（WHO）およびほぼ全ての国々に置いて HPV ワクチン接種は推奨されています。何億回もの HPV ワクチンが接種されていて、予想される局所の反応のような一時的なもの以外の深刻な副反応はないとされています。

### Q22: 私の子供は男の子です。ワクチンを接種すべきでしょうか？

接種すべきです。性別に関係なく HPV に感染するリスクがあります。HPV は性的な接触によって感染します。HPV 感染は尖形コンジローマや肛門がん・陰茎がん・口腔がん・咽頭がんの原因になります。HPV は容易に性的パートナーに伝染します。HPV ワクチンが尖圭コンジローマや HPV 関連がんからあなたの子供を守る一番の方法です。ワクチンは初めて性的接触を持つ前に接種することが一番効果的です。可能な限り、HPV ワクチンを接種させましょう（現在、日本に置いて HPV ワクチンは男子に対して定期接種の対象になっていません）。

### Q24: 私の子供は女の子です。ワクチンを摂取すべきでしょうか？

接種すべきです。性別に関係なく HPV に感染するリスクはあります。HPV は性的な接触によって感染します。HPV 感染は尖形コンジローマや子宮頸がん・外陰がん・膣がん・口腔がん・咽頭がんの原因になります。HPV は容易に性的パートナーに伝染します。HPV ワク

チンが尖圭コンジローマや HPV 関連がんからあなたの子供を守る一番の方法です。ワクチンは初めて性的接触を持つ前に接種することが一番効果的です。可能な限り、HPV ワクチンを接種させましょう（現在日本においては小学6年～高校1年の女子を対象に定期接種となっており、無料で受けれます）。

**Q23: 私の子供は男の子です。肛門がん・陰茎がん・口腔がんの検査はできますか？**

30 歳未満で HPV 関連がんになるリスクは非常に低いため、検査は必要ないと考えられます。また、子宮頸がん以外の HPV 関連がんを発見するための定期検診は行われていません。歯科・口腔検診や肛門検診を提供している医療機関もあります。HPV ワクチンが HPV 関連がんからあなたの子供を守る一番の方法です。

**Q24: 私の娘は子宮頸がん検診を受けるべきでしょうか。**

日本においては 20 歳以上の女性に 2 年に 1 度の子宮頸がん検診が勧められています。HPV ワクチンの接種によって、HPV 感染及び HPV 関連がんのリスクは大きく下げることができます。ワクチン接種によって必要な検査頻度や治療が必要となる前がん病変の頻度は下がると考えられます。しかし、ワクチンが全ての HPV 感染及び HPV 関連がんを完全に予防できるわけではないため、ワクチンを接種していても定期的に子宮頸がん検診を受けることが重要です。現行の子宮頸がん検診プログラムにしたがって検診を受けるようにしてください。

**Q26: HPV 感染はどのように“がん”へと進行するのですか？**

もし HPV に感染したとしても、ほとんどの場合、感染は免疫システムによってコントロールされ問題となりません。一部の感染が免疫システムによるコントロールを逃れ持続感染となります。HPV に感染した細胞は時間をかけて前がん状態へと変化していきます。そのような場合、治療せずに放置すると最終的にはがんとなります。がん検診をして前がん病変を発見・治療することでがんを発症するリスクを大きく下げることができます。

**Q27: もし妊娠中に HPV に感染してしまったら、赤ちゃんに移ってしまうのでしょうか？**

HPV は母から胎児・赤ちゃんには簡単には移りません。ごく稀に、尖圭コンジローマを持つ母親から生まれた赤ちゃんが、出産時に産道で HPV に感染してしまい、喉に治療が必要となるイボができることがあります（再発性気道乳頭腫症）。HPV ワクチンを接種することは母親が HPV に感染するリスクを大きく下げることができ、赤ちゃんにうつしてしまうリスクも大きく下げることができます。

**Q28: 私は HIV に感染しています。HPV ワクチンを接種することはできますか？**

できます。HIV に感染していても HIV に感染していない人と同じように HPV ワクチンは効果があります。むしろ HIV に感染している人は積極的に HPV ワクチンを受けるべきです（26 歳まで推奨されています）。なぜなら、HIV 感染によって、HPV 感染が持続化することがあり、HPV 関連がんを発症するリスクが高くなるからです。26 歳以上でも HPV ワクチンの利益があることがあります。医療機関に相談してください。

***For Adults:** All of the FAQs in this section are included either in the general questions for young people or general questions for parents.*